

様々な形態によるアンサンブル教育の実践と効果的な指導法の研究

背景・目的

音楽科の器楽専攻は、現在ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、フルートとなり、他大学と比較して非常に限定されている。また副科ではクラリネットの履修も可能だが管弦楽器専攻者はピアノ、声楽と比べて少ない。そのような環境の中でも、中規模以上の音大で行われている各種のアンサンブル授業の経験を多くの学生に持たせ、バランスのとれた音楽的要素を身に付けさせることは、本研究の最たる目的であり、各々の専攻領域を極め深めていく過程において極めて有用であると考えた。今回オーケストラの形態を編成するために、プロの演奏家を招聘し、コラボレートする体験を持たせ、より高度なアンサンブルを体験し、発表する機会を与えたいと考えた。

実施内容

2016年2月16日(火)14:10より、本学礼拝堂にて、宮城学院女子大学附属幼稚園の園児・保護者を対象に「バレンタインコンサート～おんがくのおくりもの～」と題する、コンサートを開催した。当日は、園児と保護者、園長先生をはじめとした教員も集まり、200名程が礼拝堂に介した。



オーケストラとオルガンによる演奏の中で、合唱から始まり、弦楽器や管楽器の楽器紹介を交え、普段、園児が歌っている讃美歌をはじめとする歌を会場全体で歌いあげ、会場は大いに盛り上がった。

結果及び考察

静かに着席したまま演奏に聞き入る園児、椅子に立ち上がり、身体を動かしながら歌を歌っている園児、そのどちらからも素直にこのコンサートを楽しんでいることが感じられ、会場にいた我々教員にも感動の時を与えてくれた。



園児たちが心から楽しんでいる様子を、肌で感じた学生たちの表情からも、喜びがあふれ、達成感に包まれている様子がうかがえた。

管弦楽器専攻者にとっては、プロの演奏家とともに演奏することで、それぞれの技術を向上する機会を得られたと考えられ、副科の学生も、管弦楽器専攻生・プロの演奏家と共演することで、今回のコンサートまでに積み上げた成果を達成感とともに終えることができたと考える。

幼稚園の先生方からも、学生、指導した教員、エキストラの方々に、感謝の言葉がおくられた。